

I 実践

1 研究主題

互いに思いやり助け合う児童の育成を目指した人権教育の実践

(1) 主題設定の理由

本校は、『『確かな学力、たすけあう心、たくましい体』をもった調和のとれた児童の育成』を教育目標として掲げている。それを受けて、人権教育では、「人とのつながりの中で、人権感覚を養い、社会や生活を見つめながら、主体的に行動することができる児童を育成する」ことを目標の一つとしている。

人は、様々な人とかかわりながら、日常生活を送っている。その中で、一人一人がかけがえのない存在であること、そして尊重し合うことの大切さを理解することは大切である。

そこで、地域との人とのかかわりや身体に障害がある人との交流を通して、相手の立場を考え、思いやりや助け合いの精神をもって行動することを身につけさせるため、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ・ 道徳や特別活動、総合的な学習の時間における人権教育の充実
- ・ 豊かな体験活動の展開

2 実践内容

(1) 人権週間の実践

ア ねらい

児童の人権感覚や人権意識を育成する。

(児童が発達段階に応じて人権の意義・内容や重要性について理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようにする。)

イ 期日 9/10(月)～9/14(金)

ウ 人権に関する学習をする。

【添付した指導資料(指導資料 24・26・30集より抜粋したものを印刷して配布)】

- ・ 自分もみんなも大切 一話し方ー(低学年用)
- ・ あなたならどうする ー差別・いじめー(中学年用)
- ・ 楽しい学級(学校)生活にしよう ーいじめー(高学年用)
- ・ みんなちがって みんないい ー友達のいいところー(全学年)

エ 人権メッセージを書く。(200字程度)

学級代表作品各3点ずつ、「人権コーナー」に展示。

(2) 総合的な学習の時間や生活科における体験的な活動

ア 総合的な学習の時間において(第4学年)

4年生では、総合的な学習の時間のテーマが「人にやさしい宮田を考えよう」であることから、様々な人の立場に目を向けさせ、共生を図る資質や能力を身につけられるようにと考え、様々な障害の疑似体験、幼稚園生やお年寄りとの交流を実施した。

(ア) 疑似体験を通して

- ・ 車イス体験
- ・ アイマスク体験
- ・ 点字体験

(イ) 幼稚園生とのふれあいを通して

- ・隣接の宮田幼稚園で幼稚園生との交流

(ウ) 実際にその立場の方のお話を聞くことを通して

- ・目の不自由な方
- ・耳の不自由な方
- ・体が不自由な方
- ・地域のお年寄り

イ 居住地交流の実践（第4学年）

2年生では、特別支援学校に通う児童との交流を通して、それぞれのよさに気づき、障害や個性を理解して、優しく接しようとする気持ちや、今までの経験をもとに自分のできることを見つけて実践する態度を育ててきた。

(3) その他の活動

ア 異学年集団（縦割り班活動）の交流

本校では、毎月第3週の水曜日の宮田っ子タイム（ロングの昼休み）において、1年生から6年生の縦割りの集団（18集団）を編成し、6年生がリーダーとなって計画をたて、異学年と一緒に楽しく遊ぶ活動を行った。そのことにより、6年生が1年生のお世話をしたり、学年を超えて親しみをもって接したりすることができた。

イ あいさつ運動

毎朝、事務局委員会が中心となり、昇降口でのあいさつ運動を実施した。本校職員や高学年の児童が学校の正門や非常門、昇降口であいさつを呼びかけたり、駒王中学校の有志の生徒や宮田小学校 PTA の方の協力を頂き、自宅前や通学路でもあいさつ運動を実施したりする等、地域が一体となって人間関係づくりの基礎となるあいさつの活性化に努めた。

3 成果

- ・障害のある方に実際に話を伺うことで、大変さだけでなく、工夫次第で健常者と変わらない日常生活を送れることがよく理解できた。また点字や車イスなどの福祉体験を通して、障害のある方の努力や生活上の工夫について、さらに理解を深めることができた。
- ・異学年交流では、高学年としての自覚をもち、低学年の児童に優しく面倒を見たり遊びを教えたりするなど、思いやりの心を育むことができた。

II 今後の課題

児童が身につけた「互いに思いやり助け合う」態度をより確かなものにするため、これからも、総合的な学習の時間や道徳の時間等を活用する必要がある。その際には、それぞれの教科の関連に留意し、授業を改善・工夫していきたい。

また、本校の取組を広報することで、学校と地域が一体的な人権教育の推進に取り組めるよう目指していきたい。

III 人権コーナー設置の様子

